 横浜薬科大学

# 大地震対応マニュアル

## (地震に備えて)

- I 地震発生時の対応
- II 地震発生後の対応
- III 地震発生数日後の対応
- IV 火災に備えて
- V 参考となる情報



## 目 次

はじめに	2
I 地震発生時の対応	3
1 災害初動マニュアル	3
2 地震が起きた時	4
3 避難場所案内	6
II 地震発生後の対応	7
・ 帰宅するか ・ 学校に残るか	7
III 地震発生数日後の対応	8
・ 安否・休講・授業再開日について	8
IV 火災に備えて	9
1 火災を起こさないために	9
2 火災発生！ 初期消火の3原則	9
3 火災からの避難方法	9
V 参考になる情報	11
1 日頃から準備しておくこと	11
2 キャンパス（俣野町）から20km以内のエリア	11
3 帰宅支援ステーション	12
4 防災対応マニュアルについて	12

## はじめに

このマニュアルは、基本的な行動基準を示すもので「横浜薬科大学防火・防災管理に係る消防計画」に基づき、防災・減災意識の定着と震災発生時の緊急対応について解説したものです。

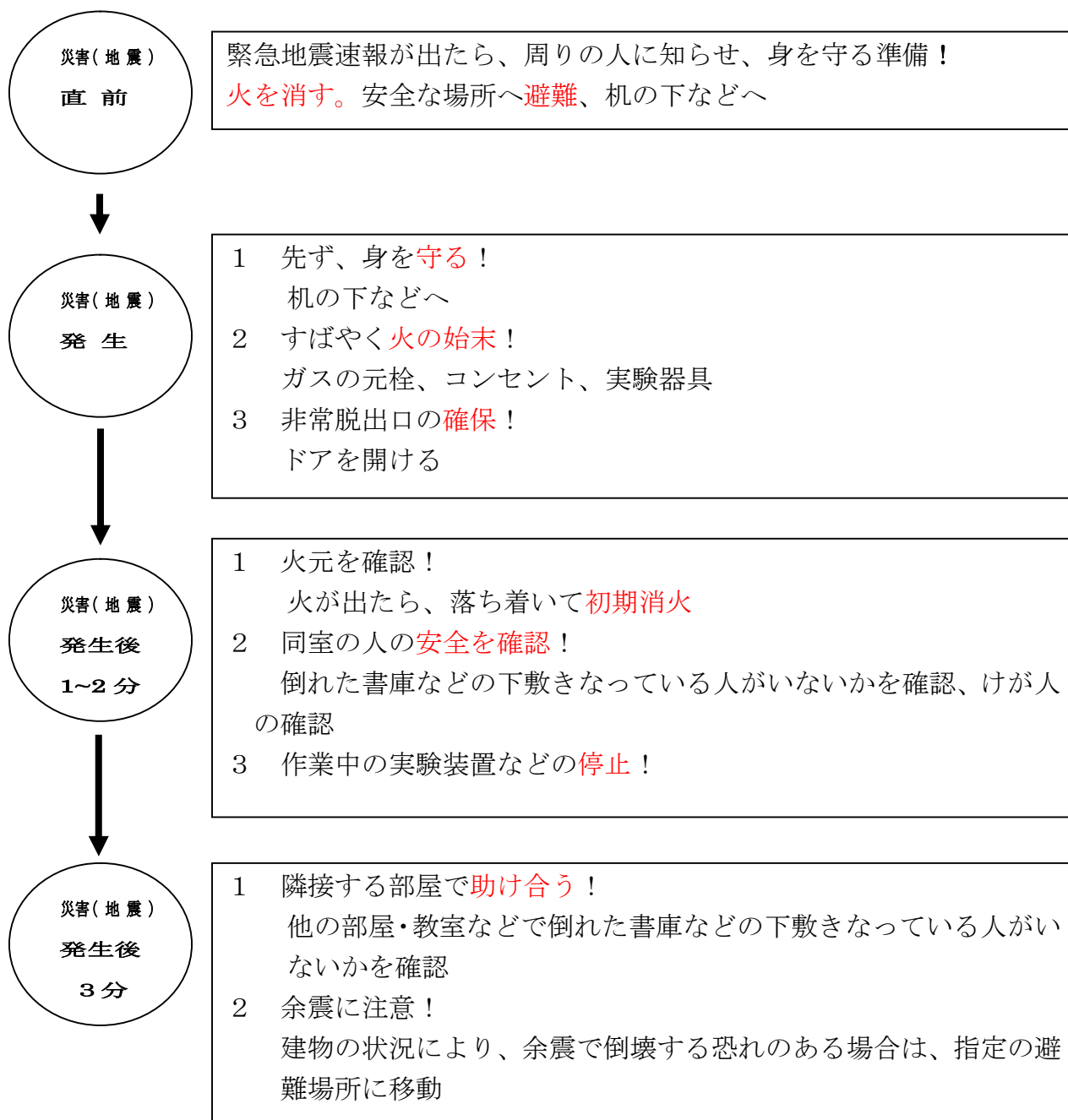
震度6以上での地震に際して、地震発生時に身を守り、発生後数時間の混乱を乗り越え、最低限の社会インフラが回復すると考えられる3日後までの対処方法をまとめています。



本学の校舎は震度6弱程度の地震で大きな被害を受けることはありませんが、交通機関、電気、ガス、水道のインフラが被害を受けることで、学生生活に支障を来す可能性があります。このマニュアルの内容をよく理解し、日頃から防災意識を高めておきましょう。

# I 地震発生時の対応

## 1 災害（地震）発生時の初動マニュアル



## 2 地震が起きたとき グラッときたら！

### ① まず我が身の安全を確保しましょう！

- 窓や棚のように、ガラスが割れたり中のものが飛び出しそうな場所から離れましょう。
- 机の下に潜るか、鞆・衣類・教科書などで頭を覆うなどして、ガラス、黒板、テレビモニター、蛍光灯などの落下物から頭と手足を守りましょう。
- 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口の確保をしましょう。
- 火気を使っている時は、火を消しましょう。また薬品などから離れましょう。



### ② 揺れがおさまった後の対応

- 冷静に落ち着いて！
- 建物は大丈夫か、火災は起きていないか、負傷者はいないかなどの確認をしてください。
- 火災、負傷者がいる場合、大きな声でまわりの人に知らせ、自分の身が安全な範囲で初期消火、応急手当をしてください。



### ③ 避難するかどうかの判断と行動

#### ① 判断するときのポイント

- 室内の状況確認：備品が倒れ散乱していないか、薬品が漏れたり、流れ出していないかなどを確認してください。
- 他の教室の状況確認：周囲の教室や部屋の状況を確認してください。非常放送があった場合は、その指示に従ってください。
- 建物の状況確認：建物が傾いていないか、壁にひびが入ったりしていないかなどを確認してください。
- 火災の状況：火災が起きていないか、起きていれば消火できるかを判断してください。
- 以上のポイントが安全と確認できた場合は、とりあえず指示があるまでその場を動かないでください。

#### ② 行動に移す時のポイント

安全が確認できない場合は、次の通り行動してください。

- 火災が起きている場合は、避難する前に、タオルやハンカチで口を覆います。
- どのルートで避難すれば安全か確認します。
- エレベーターは使わず、階段を使用します。
- 押し合うなど周囲の人の安全を脅かさないように注意します。

### ④ 発生後 3 分経過後の対応

#### ① 余震への備え

- 避難ルートの確保：大きな地震には必ず大きな余震があります。窓やドアを開け、避難ルートを確保します。

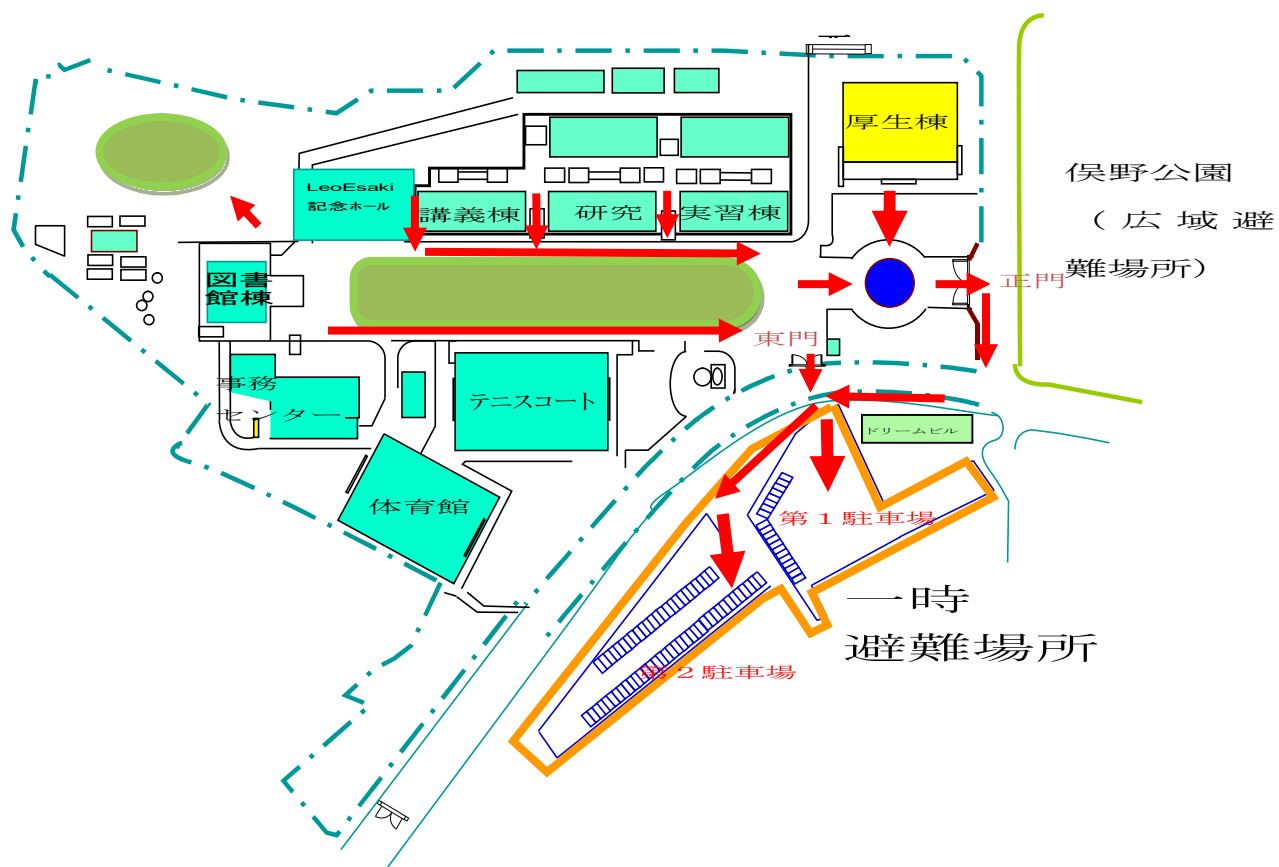
#### ② 火災防止へ

- ガス漏れ対策：2次災害を防ぐためにガスの元栓を閉めます。
- 電気・火災への対策：配電盤のある研究室・実験室はスイッチを切ってください。電気器具はプラグを抜き、スイッチを切ります。

### 3 避難場所（避難マップ）

避難場所は、広く、火災による延焼の恐れがないところが適しています。大学では、あらかじめ以下の場所を一時避難場所として想定していますが、地震時の状況により安全な場所に避難してください。

- \* 一時避難場所とは一時的な集合場所、広域避難場所は大規模な火災などが起きた場合に避難する場所です。



- 誘導の指示に従い、避難して下さい。
- 自ら掌握下に入って下さい。
- 落ち着いて行動して下さい。

## II 地震発生後の対応

### 帰宅するか・学校に残るか？

ポイント：デマ・誤情報などに惑わされずに

テレビ・ラジオでの正しい情報を収集しましょう。

#### 1 自宅が大学から20km以内の人は帰宅

帰宅する目安は、自宅が大学から20km以内であるかどうかです。ただし、地震の規模、起きた時間、交通機関の状況、自身の体調によって臨機応変に決めてください。

- ① 交通機関を利用する場合、運行状況を確認し、混雑時を避ける。
- ② 原則として徒歩で帰宅する。
- ③ 幹線道路を通る。また、複数の帰宅道路を想定しておき、安全な経路を選択し、余裕を持つことも大切です。
- ④ 日没後の行動は危険です。事故・事件に巻き込まれる可能性もあるためひとりでの行動は避けましょう。

#### 2 自宅が大学から20kmよりも遠い人は避難所へ

- ① 自宅がキャンパスから20kmよりも遠い人は、帰宅を見合わせ大学が用意する避難所か、最寄りの避難所を利用してください。  
ただし、地震の規模、起きた時間、交通機関の状況、自身の体調によって臨機応変に判断してください。大学が避難所を開設した場合、学内放送などでお知らせします。
- ② 大学の避難所を利用する場合は、大学の指示に従ってください。備蓄物資や災害用の水の運搬、避難所設営などのお手伝いをお願いすることもありますのでご協力ください。



### Ⅲ 地震発生数日後の対応

#### 1 安否報告

本学では「安否確認システム（ANPIC）」を運用しております。神奈川県及び近隣都県で震度 5 強以上の地震が発生した場合には、ANPIC から安否報告を求めるメールが皆さんの大学メールアドレスへ自動送信されます。メールの差出人は、【横浜薬科大学－安否確認システム】です。メールを受信されたら、メール本文に表示されている URL をクリックし、ご自身の安否を報告してください。

※ANPIC が使用出来ない場合には、メール、FAX または電話で下記の内容を報告してください。

【タイトル】 「安否報告」

【内 容】 ◇学科 ◇学籍番号 ◇氏名 ◇学生本人や家族の負傷の有無  
◇自宅の損壊状況 ◇連絡の取れる電話番号・住所  
◇メールアドレス 緊急用

学生課 メール [gakuseika@hamayaku.ac.jp](mailto:gakuseika@hamayaku.ac.jp)

FAX 045-859-1301 電話 045-859-1325

#### 2 家族との安否連絡

家族との安否連絡は、NTT の災害用伝言ダイヤル、携帯電話による情報登録検索、インターネット情報登録検索などを使ってください。

日頃から、震災時にどのように連絡を取るのか決めておくといよいでしょう。

#### 3 休講・講義再開

休講や講義再開のお知らせは、決定後速やかに、大学のホームページ・学生ポータルサイトまたはメディアを通じてお知らせします。

## IV 火災に備えて

### 1 火災を起こさないために

- ① 建物の周囲・部屋の中の整理整頓
- ② タコ足配線はしない。
- ③ 火をつけたらその場を離れない。
- ④ 禁煙

### 2 火災発生！初期消火の3原則

- ① まわりに大声で知らせる。  
火災を発見したら、まず、まわりに知らせることが大事、声が出なければ物を叩くなどして異変を知らせる。
- ② 素早い消火
  - ・ 出火から3分以内が消火できる限度
  - ・ 近くの消火器や消火栓で初期消火に努める。
  - ・ 電源やブレーカを切る。
- ③ いさぎよく逃げる。
  - ・ 天井に火が燃え移ったら限度、いさぎよく避難する。
  - ・ 避難するときは、燃えている部屋のドアや窓を閉めて空気を絶つ。

### 3 火災からの避難方法

- ① 服装や持ち物にこだわらず、出きるだけ早く避難する。
- ② ちゅうちょは禁物。炎の中は一気に走り抜ける。
- ③ 煙の中を逃げるときは、できるだけ姿勢を低くする。
- ④ いったん逃げ出したら、再び中には戻らない。
- ⑤ 逃げ遅れた人がいるときは、近くの人や消防隊にすぐ知らせる。
- ⑥ エレベーターを使わず、階段を使用する。

一時避難場所は第1・第2駐車場 P6を参照
-----------------------

\* 一般的な消火器の使用方法



**注意!**

あまり遠い場所で放射させると有効な放射距離まで来たときに薬剤が無くなっていることがあります。

**重要 !!**

初期消火に失敗した場合に備えて、必ず避難路を確保してから初期消火に当たってください。

## V 参考となる情報

### 1 日頃から準備しておくこと

講義室・研究室・実習室等で準備しておくこと。

- 最寄りの非常階段の位置はどこか
- 最寄りの消火器の位置はどこか
- いざという時に部屋から避難しやすいか
- 一時避難場所や広域避難場所への避難経路を確認しているか
- 自宅へ歩いて帰宅する場合の経路は決まっているか
- 家族との連絡方法は決めているか
- 研究室の関係者の緊急連絡先は分かっているか
- 薬品庫は収納された薬品が転倒しないようになっているか
- ガス元栓や配電盤の設置場所はどこか
- 高圧ガスのボンベは転倒防止をしてあるか
- 実験動物は逃げ出さない構造になっているか

### 2 キャンパス（俣野町）から20キロ以内のエリア



### 3 帰宅支援ステーション

神奈川県の帰宅支援

地震発生後、大学から半径20km以内に自宅のある学生・教職員は徒歩により帰宅することが望めます。

その場合、神奈川県により、帰宅支援対象道路（主要幹線道路）付近に「帰宅支援ステーション」が設置される予定です。

帰路の途中で、次のステッカーが貼ってあるコンビニエンスストア、ガソリンスタンド、ファミリーレストラン等があれば、水やトイレ、情報の提供が受けられます。



### 4 防災対応マニュアルについて

必要に応じて、プリントアウトして下さい。また、入学時に配布したポケット版の大地震防災マニュアルは常に身につけて防災に役立ててください。

#### ① マニュアルの改訂について

- 防災対応マニュアルは随時改訂します。
- 改訂版はホームページ <https://www.hamayaku.ac.jp/>に掲載します。

#### ② 意見・ご要望について

- より使いやすく、必要な情報を網羅したマニュアルを目指しています。
- マニュアルに関するご意見・ご要望をお寄せください。

宛先：学生課 FAX 045-859-1301

メール [gakuseika@hamayaku.ac.jp](mailto:gakuseika@hamayaku.ac.jp)